

## 令和5年度第46回基礎学力調査について

広島県中学校教育研究会数学部会・広島県中学校数学教育会  
研究推進委員会研究代表

呉市立仁方中学校  
廿日市市立吉和中学校  
三原市立久井中学校

### 1 はじめに

広島県中学校教育研究会数学部会では、生徒の学年別領域別基礎的・基本的な学力の実態を明らかにし、生徒一人ひとりの学力をより確かなものにするための指導法を研究するため、毎年基礎学力調査を実施している。

今回の基礎学力調査は第46回を数える。現代社会は、急速に発展しつつある情報化社会において、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断することが求められる。そのような状況を踏まえ、今年度は調査内容を「データの活用」とし、「データの活用」領域における基本問題を抽出して調査を行った。

平成29年7月に変更された新学習指導要領では、累積度数、四分位範囲、箱ひげ図が新たな内容として加わった。また、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率は第2学年から第1学年へと移行した。このように学習内容に、大きな変化があったことで、新たな教材の開発や指導の困難さを感じていると思われる。そこで、生徒の実態把握や指導法の工夫改善に役立つ指標の一部でも示すことができれば幸いである。

### 2 研究の方法

広島県下の中学生を対象に、令和4年度末に調査を実施した。その後、各支部の研究推進委員が調査を集計したものを各学年の担当理事が第一学年647名、第二学年894名、第三学年962名を抽出して結果の分析、考察を行った。調査結果をもとに、誤答や無答の多い問題について、つまずきの実態を明らかにするとともに、授業改善に向けた教材や指導方法を考察した。

### 3 研究内容

各学年の問題は、新学習指導要領に沿って新たな問題を追加した。各学年共通問題も用意し、学年での比較ができるような問題を作成し、分析を行った。

### 4 各学年の結果と分析

### 5 今後に向けて

### 6 おわりに

前回「資料の活用」として行われた調査領域が、今回「データの活用」となった。指導要領の改訂により指導内容も大きく変わった領域である。特に2年生の内容については、多くの指導者が履修してきていないものである。子どもたちにつけたい力がしっかり身に付いているかを確認する際、こちらが指導内容をどれだけ理解しているかがポイントとなる。だからこそ、教科書をそのまま教えるのではなく、まずは自分たちで解いて、その学習の進め方について検討することから始めてもいいのではないだろうか。そのような取組を行った郡市もあると聞いている。まずは私たち自身がこの単元の良さを実感し、それを子どもたちに伝えるための指導方法の工夫を考えることの大切さについても、今一度考え、子どもたちの一つ一つの学びを、確実にしていきたいものである。